公益財団法人　千里ライフサイエンス振興財団

1. 法人の概要

【令和2年7月1日現在】

代表者名	理事長　岸本　忠三	設立年月日	平成2年7月31日
電話番号	06(6873)2001	法人所管課	商工労働部成長産業振興室ライフサイエンス産業課
所在地	豊中市新千里東町1－4－2	ＨＰアドレス	http://www.senri-life.or.jp
設立目的	大学、試験研究機関、産業、行政の連携・交流を促進するとともに、研究とその実用化を支援することにより、ライフサイエンス分野における大阪の優れた特性を更に伸ばし、研究・開発と産業の活性化を通じて社会に貢献することを目的とする。		
一般財団法人または公益財団法人移行年月日	平成22年4月1日		

主な出捐団体（出捐割合）			
大阪府	1,000,000	千円	32.9%
(株)りそな銀行	100,000	千円	3.3%
阪急電鉄(株)	100,000	千円	3.3%
武田薬品工業(株)	100,000	千円	3.3%
その他の団体	1,740,500	千円	57.2%
出捐総額	3,040,500	千円	
備考（基本財産）	3,040,500	千円	

2. 役職員の状況

（単位：人）　【各年度7月1日時点】

		平成30年度			令和元年度			令和2年度		
			府派遣	府OB		府派遣	府OB		府派遣	府OB
役員	常勤役員	0	0	0	0	0	0	0	0	0
役員	非常勤役員	0	0	0	0	0	0	0	0	0
職員 管理職	プロパー職員	0			0			0		
職員 管理職	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0
職員 一般職	プロパー職員	0			0			0		
職員 一般職	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0
職員	常勤職員計	0	0	0	0	0	0	0	0	0

プロパー職員（ 0 人）の 給与に関する状況（令和元年度）

年間給与手当支給額平均	0	千円	平均年齢	0.0 歳

【役員名簿】

役職名	氏名	現職名	現任期終了	備考
理事長	岸本　忠三	国立大学法人大阪大学 免疫学フロンティア研究センター 特任教授	R3.6	
専務理事	矢追　　武	(元大阪府立中央図書館長)	R3.6	常勤
理事	審良　静男	国立大学法人大阪大学 免疫学フロンティア研究センター特任教授	R3.6	
理事	北村 惣一郎	国立研究開発法人国立循環器病研究センター名誉総長	R3.6	
理事	木村　　徹	大日本住友製薬㈱取締役常務執行役員	R3.6	
理事	塩田　武司	塩野義製薬㈱執行役員経営戦略本部経営企画部長	R3.6	
理事	土井　健史	国立大学法人大阪大学大学院薬学研究科長	R3.6	
理事	中山　譲治	第一三共㈱代表取締役会長	R3.6	
理事	濵岡　利之	国立大学法人大阪大学名誉教授大阪医専学校長	R3.6	
理事	廣田　直美	武田薬品工業㈱日本開発センター所長	R3.6	
理事	三宅 眞実	公立大学法人大阪府立大学生命環境科学域長	R3.6	
理事	森井　英一	国立大学法人大阪大学大学院医学系研究科長	R3.6	
監事	土井　信幸	土井公認会計士事務所公認会計士・税理士	R3.6	

役員の定数・任期・選任方法

定数	理事	7 名以上12名以内
	監事	2 名以内
任期	理事	2 年
	監事	4 年
選任方法	理事及び監事は、評議員会の決議により選任する 理事長及び専務理事は、理事会の決議により理事の中から選定する	

3. 主要事業の概要

公益財団法人　千里ライフサイエンス振興財団

【事業規模（事業費）】

（単位：千円）

事　業　名	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度予算	備　考
① 研究助成支援事業	32,118	32,080	32,104	32,198	ライフサイエンス分野における若手研究者への研究助成
全事業合計に占める割合	20.4%	25.8%	24.5%	23.1%	
② 研究及び実用化支援事業	41,118	15,742	17,305	17,510	ライフサイエンス分野における研究とその実用化・事業化を支援
全事業合計に占める割合	26.1%	12.6%	13.2%	12.5%	
③ 人材育成事業	18,149	9,650	16,632	11,748	ライフサイエンス分野の発展基盤を支えるため、研究交流を通じた研究人材を育成
全事業合計に占める割合	11.5%	7.7%	12.7%	8.4%	
④ 普及啓発事業	11,383	12,851	10,696	13,102	ライフサイエンス分野に関する知識・情報等を市民公開講座等を通じ普及する
全事業合計に占める割合	7.2%	10.3%	8.2%	9.4%	
⑤ ①～④以外の事業	54,890	54,203	54,193	65,074	財団の管理運営等
全事業合計に占める割合	34.8%	43.5%	41.4%	46.6%	
全事業合計	157,658	124,526	130,930	139,632	
全事業合計に占める割合	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

【事業計画及び事業実績】

事　業　内　容	事　項	事　業　量		備　考
		令和元年度事業量	令和2年度計画量	
1　人材育成事業	(1)千里ライフサイエンスセミナーの開催 開催回数・参加者数	5回・959人	3回・240人	
	(2)新適塾の開催 開催回数・参加者数	10回・838人	7回・560人	
2　研究助成支援事業	(1)若手研究者の研究支援 応募件数・採択件数	196件・15件	215件・15件	
3　普及啓発事業	(1)千里ライフサイエンスフォーラムの開催 開催回数・参加者数	9回・730人	7回・490人	
	(2)広報活動 ホームページアクセス件数	9,986件	10,000件	
4　研究及び実用化支援事業	(1)日本医療研究開発機構「橋渡し研究戦略的推進プログラム」の活用 産学連携競争的資金獲得件数	6件	6件	
	(2)創薬・基盤技術ビジネスフォーラムの開催 開催回数・プレゼンテーション件数	1回・6件	1回・6件	

公益財団法人　千里ライフサイエンス振興財団

4. 大阪府の財政的関与の状況

（単位：千円）

区　分		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度予算	補助金、委託料等の内容
補　助　金		0	0	0	0	
委　託　料		10,559	0	0	0	
ライフサイエンス事業化推進事業（旧バイオ産業化等事業）委託費	（随契）	10,559	0	0	0	バイオベンチャーが有する研究シーズの産業化支援業務
貸　付　金		0	0	0	0	
その他（分担金・負担金・出捐金等）		1,629	1,629	1,644	1,659	
共用会議スペースの負担金	（負担金）	1,629	1,629	1,644	1,659	共用会議スペースの負担金
合　　計		12,188	1,629	1,644	1,659	

府損失補償・債務保証契約に係る債務残高（期末）	0	0	0
府借入金残高（期末）	0	0	0

5. 財務状況

（単位：千円）

				平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度比増減	分析・評価
貸借対照表	資産合計			4,318,760	4,335,796	4,335,352	△ 444	
		流動資産		45,669	62,862	62,482	△ 380	（現金預金） 平成30年度の投資有価証券運用利息及び受託事業受託金等の未収金を令和元年度に現金預金化した金額が前年度より増加したこと（4,792千円）が主な要因である。 （未収金） 未収金の減少については、投資有価証券の運用利息が減少したこと（9,851千円）が主な要因である。
			現金預金	8,487	20,781	30,302	9,521	
			未収金	35,447	40,239	30,316	△ 9,923	
			その他流動資産	1,735	1,842	1,864	22	
		固定資産		4,273,090	4,272,934	4,272,870	△ 64	
			基本財産	3,041,421	3,041,659	3,041,898	239	
			特定資産	1,229,919	1,229,941	1,229,964	23	
			その他固定資産	1,750	1,333	1,009	△ 324	
	負債合計			3,687	3,236	2,039	△ 1,197	
		流動負債		3,687	3,236	2,039	△ 1,197	
			短期借入金	0	0	0	0	
			未払金	2,344	2,156	1,173	△ 983	
			その他流動負債	1,343	1,081	865	△ 216	
		固定負債		0	0	0	0	
			長期借入金	0	0	0	0	
			各種引当金	0	0	0	0	
			その他固定負債	0	0	0	0	
	正味財産合計			4,315,073	4,332,559	4,333,314	755	
		指定正味財産		3,394,985	3,419,455	3,427,625	8,170	
		一般正味財産		920,087	913,104	905,688	△ 7,416	

※単位未満は四捨五入を原則としたため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

公益財団法人　千里ライフサイエンス振興財団

（単位：千円）

			平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度比増減	分析・評価
正味財産増減計算書	（一般正味財産増減の部）						（基本財産運用益） 基本財産運用益の増加については、指定正味財産増減の部の基本財産受取利息からの振替額の増（12,902千円）によるものである。 （特定資産運用益） 特定資産運用益の減少については、豪ドル安に伴う特定資産受取利息の減（6,790千円）によるものである。 （事業費） 事業費の増加については、当年度は国際シンポジウムを開催したことによる人材育成事業費の増（6,982千円）、前年度発行した対談集を当年度発行しなかったことによる普及啓発事業費の減（2,155千円）などが主な要因である。
	経常収益		150,047	117,543	123,514	5,971	
		基本財産運用益	66,424	54,000	66,902	12,902	
		特定資産運用益	26,922	24,395	17,605	△ 6,790	
		受取会費	0	0	0	0	
		事業収益	1,692	1,461	1,264	△ 197	
		受取補助金等	21,852	4,786	4,699	△ 87	
		受取負担金	1,629	1,629	1,644	15	
		受取寄付金	30,127	30,136	30,099	△ 37	
		その他の収入（受取利息収入等）	1,400	1,136	1,301	165	
	経常費用		157,658	124,526	130,930	6,404	
		事業費	102,768	70,323	76,737	6,414	
		管理費	54,889	54,203	54,193	△ 10	
	評価損益等調整前当期経常増減額		△ 7,610	△ 6,983	△ 7,416	△ 433	
	当期経常増減額		△ 7,610	△ 6,983	△ 7,416	△ 433	
	経常外収益		0	0	0	0	
	経常外費用		0	0	0	0	
		固定資産売却損	0	0	0	0	
	当期経常外増減額		0	0	0	0	
	当期一般正味財産増減額		△ 7,610	△ 6,983	△ 7,416	△ 433	
	（指定正味財産増減の部）						
		基本財産運用益	66,663	68,484	67,141	△ 1,343	
		特定資産運用益	9,490	9,986	7,932	△ 2,054	
		受取寄付金	0	0	0	0	
		一般正味財産への振替額	△ 69,000	△ 54,000	△ 66,902	△ 12,902	
	当期指定正味財産増減額		7,153	24,470	8,170	△ 16,300	
	正味財産期末残高額		4,315,073	4,332,559	4,333,314	755	

※単位未満は四捨五入を原則としたため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

公益財団法人　千里ライフサイエンス振興財団

仕組債の保有状況	保有総額＜平成31年3月31日時点＞	保有総額（A）＜令和2年3月31日時点＞	時価評価額（B）＜令和2年3月31日時点＞	保有総額と時価評価額差（B）−（A）
	2,100,000	2,100,000	2,265,500	165,500

主な経常費用	平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度比増減	分析・評価
役員人件費	13,178	13,184	13,214	30	
職員人件費	37,014	29,266	29,545	279	
退職給付費用	0	0	0	0	
減価償却費	409	417	324	△ 93	

主要経営指標		平成29年度	平成30年度	令和元年度	前年度比増減	分析・評価
公益事業比率	公益事業費用／経常費用	65.2%	56.5%	58.6%	2.1%	（流動比率） 流動比率の増加については、現金預金の増加に伴う流動資産の増が主な要因である。
人件費比率	人件費／経常費用	31.8%	34.1%	32.7%	−1.4%	
自己収入比率	自己収入／経常収益	33.0%	48.6%	40.7%	−7.9%	
流動比率	流動資産／流動負債	1238.6%	1942.6%	3064.3%	1121.8%	
借入金比率	借入金残高／負債・正味財産合計	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	

公益財団法人　千里ライフサイエンス振興財団

6. R1年度　経営目標の達成状況

Ⅰ. 最重点目標（成果測定指標）

戦略目標	成果測定指標	単位	H30実績	R1目標	R1実績（※1、4）	ウェイト	得点（※2、4）	小計（※3、4）
① 産学官の研究交流促進と研究人材の育成	千里ライフサイエンスセミナーの広域的参加者率（京阪神以外からの参加者数/全参加者数）	%	19.6	20.0	21.8	25	25	30/30【100%】
	千里ライフサイエンスセミナーの参加者数	人	918	900	959	5	5	

Ⅱ. 設立目的と事業内容の適合性（事業効果、業績、CS）

① 産学官の研究交流促進と研究人材の育成	千里ライフサイエンスセミナーの参加者満足度（「大いに役立った」+「役立った」/全回答）	%	89	88.0	89.3	10	10	38/55（40/55）【69%】（【73%】）
② 優れた若手の先端的研究を積極的に支援・助成	岸本基金研究助成件数	件	15	15	15	5	5	
	岸本基金研究助成応募件数	件	234	250	196	10	0	
③ 研究成果の実用化を支援	産学連携競争的資金獲得件数	件	5	6	6	15	15	
④ ライフサイエンスの情報発信拠点づくり	千里ライフサイエンスフォーラム参加者数	人	690	740	730（877）	10	8（10）	
	ホームページ総アクセス件数（月平均）	件	10,491	12,000	9,986	5	0	

Ⅲ. 健全性・採算性（財務）、コスト抑制と経営資源の有効活用・自立性の向上（効率性）

⑤ 経営基盤の強化	効率的・効果的な資金運用	億円	1	0.9	0.92	10	10	15/15【100%】
⑥ 経営資源の有効活用	総労働時間（マンパワーの効率化）	時間	3,680	3,670	3,663	5	5	

※1　網掛けは目標達成項目。

※2　目標値が前年度実績以上の場合、当該年度の実績値が目標値に到達しないときでも、達成状況に応じて加点を行う。

※3　小計の【　】は得点率。

※4　（　）は新型コロナウイルスの影響がなかったと仮定した場合の推計値。

7. 法人による評価結果

法人の総合的評価結果	点数（合計）	役員業績評価
・前年度未達成であった最重点目標の「千里ライフサイエンスセミナーの広域的参加者率」については、第一線の研究者による最先端のテーマを選んで講演を行った結果、21.8%の実績となり目標の20%を達成することができた。また、このセミナーに関連した指標である「セミナーの参加者数」、「セミナーの参加者満足度」についても魅力的なテーマ・講師を選定した結果、それぞれ目標を達成した。 ・岸本基金研究助成については、若手研究者の先進的な研究成果の応募が多数あり、助成件数は目標の15件を決定することができた。応募件数は目標の250件を下回ったため、今後とも本研究助成制度の周知に向け、大学、学会等へのPRに取り組むこととする。 ・「産学連携競争的資金獲得件数」については、大阪大学と緊密な連携を取ることにより、目標の6件を獲得することができた。 ・未達成となった「千里ライフサイエンスフォーラムの参加者数」については、年度末の2月、3月に開催予定のフォーラムが新型コロナウイルス感染症拡大防止により中止となったため目標を僅かに下回ったが、1回当りの参加者数（81人）は目標（67人）を上回っており、実質的には目標達成と考えている。また、もう一つの未達成項目である「ホームページ総アクセス件数」も、新型コロナによる年度末の財団行事中止によるアクセス件数の落ち込みも未達成の一因であった。 ・「効率的・効果的な資金運用」については運用目標額の9千万円を達成したが、年度末の豪ドル安の影響を受け運用額が前年度より1千万円近く落ち込んでおり、新型コロナによる超低金利の厳しい世界経済の状況のもと、今後ともより効率的な資金運用を行っていく。	83 （85）	B （B）

※ （　）は新型コロナウイルスの影響がなかったと仮定した場合の推計値による点数（合計）及び役員業績評価

8. 府の審査・評価の結果

審査の結果	経営状況、事業の実施状況その他の事項に関する府の評価結果及び指導・助言
○最重点目標 ・産学官の研究交流促進と研究人材の育成について、広域的参加者率・参加者数ともに目標を達成。 ○事業効果、業績、CS ・6項目のうち3項目で目標を達成。 ・「岸本基金研究助成件数」は、応募件数が増加せず、目標値を下回った。しかし、これまでも自然科学分野に関する学部・大学院を有する主要大学の学部長・研究科長に依頼して学内周知を図っており、令和元年度より周知先を増やすなど工夫していた。 ・「千里ライフサイエンスフォーラム参加者数」は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため2回分の開催を中止したことにより、目標値を下回ったが、1回あたりの参加者数は目標値を上回った。今後も魅力あるテーマ選定に努めていただきたい。 ・「ホームページ総アクセス件数」は、国際シンポジウムの開催など大きなイベントがあったにも関わらず、1年を通じてほとんどの月で月平均のアクセス件数が目標値より下回ったことに加え、新型コロナウイルス感染症拡大防止のためイベントを中止したことにより年度末のアクセス件数が大きく減少した。HPの掲載コンテンツを全面的に見直すなど効果的な事業展開を図られたい。 ○財務・効率性 ・2項目とも達成	（評価） ・最重点目標の「千里ライフサイエンスセミナーの広域的参加者率」及びプロセス指標である「千里ライフサイエンスセミナーの参加者数」については、全国から第一線の研究者と講師を招くことで関西以外から数多くの参加者を誘致できており、目標を上回っている点は評価できる。 ・「千里ライフサイエンスフォーラム参加者数」は目標未達成となったが、新型コロナウイルスの影響による2回分の開催中止がなければ目標の達成が見込まれていた点は評価できる。 ・「ホームページ総アクセス件数」は、年間を通じて目標値を下回る傾向になっており3年連続で目標未達成となるなど、アクセス数の向上を図るための取組みが求められる。 （指導・助言） ・ライフサイエンス分野の発展を担う研究人材の育成に向け、法人のコーディネーター機能など法人の強みに関する情報発信に努めるとともに、引き続きホームページのアクセス件数の増加につながるコンテンツの開発など具体的な方策を検討し、効果的な取組みを進めること。 ・財源が基本財産等の運用益に限られていることを踏まえ、国庫補助金や寄付金の活用など、積極的な外部資金の獲得やコスト縮減の取組みに努めること。

9.「平成30年度大阪府行政経営の取組み」における方向性（平成30年2月）

○存続
・ライフサイエンス分野の専門的役割を担う法人として事業を継続する

10. 経営目標設定の考え方

ミッション

○千里・北大阪地域を中核とし、研究者・製薬企業が参集・交流し、優れた研究者が育成され、新たな医薬品・技術の開発が進んでいく「ライフサイエンス拠点」の形成を目指す。

■ 大阪府の施策

・ライフサイエンス産業の振興

基本方針

1　人材育成事業

ライフサイエンスの発展を担う人材を育成

2　研究助成事業

優れた若手の先進的研究を積極的に支援・助成

3　実用化支援事業

大学・研究機関等の研究成果の民間における実用化を支援

4　普及・啓発事業

ライフサイエンスの重要性を啓発し、知識・成果の普及に努める

5　法人運営の安定化

より効率的・効果的な事業運営等に努める

戦略目標と成果測定指標【中期経営計画上の目標値】

①産学官の研究交流促進と研究人材の育成
- 千里ライフサイエンスセミナー広域的参加者率（京阪神以外）
  【15%(H28実績)→ 20%(R3)】
- 千里ライフサイエンスセミナー参加者数
  【1,006人(H28実績)→ 900人(R3)】
- 千里ライフサイエンスセミナー参加者満足度
  【87%(H29実績)→ 60%(R3)】

②優れた若手の先進的研究を積極的に支援・助成
- 岸本基金研究助成件数（中期計画期間中）
  【16件(H28実績)→ 75件(H29～R3累計)】
- 岸本基金研究助成応募件数
  〔196件(R1実績)→ 215件(R2)〕

③研究成果の実用化を支援
- 産学連携競争的資金獲得件数
  〔6件(R1実績)→ 6件(R2)〕

④ライフサイエンスの情報発信拠点づくり
- 千里ライフサイエンスフォーラム参加者数
  【777人(H28実績)→ 800人(R3)】
- ホームページ総アクセス件数
  【12,026件(H28実績)→ 13,000件(R3)】

⑤経営基盤の強化
- 効率的・効果的な資金運用
  【運用益0.9億円(H28実績)→ 0.9億円(R3)】

⑥経営資源の有効活用
- 総労働時間（マンパワーの効率化）
  〔3,663H(R1実績)→ 3,660H(R2)〕

公益財団法人　千里ライフサイエンス振興財団

11．R2年度　目標設定表

Ⅰ．最重点目標（成果測定指標）

戦略目標	成果測定指標	単位	H30実績	R1実績	R2目標	ウエイト（R2）	中期経営計画最終年度目標値（R3）
① 産学官の研究交流促進と研究人材の育成	千里ライフサイエンスセミナーの参加者数	人	918	959	240	30	900

法人経営者の考え方（取組姿勢・決意）		具体的活動事項
最重点とする理由、経営上の位置付け	○財団は設立当初より、ライフサイエンス分野の発展を担う創造性・独創性豊かな産・学・官の研究人材の育成・質的向上を支援する事業を特に重要な事業と考えている。 ○前計画（H24～H28）の実績を見ても千里ライフサイエンスセミナーや新適塾の参加者満足度調査ともに一定の評価が確立してきた。そこで千里の地から全国への情報発信を狙いとし、旬のテーマを選び全国の第一線の研究者を招いて実施しているセミナーを最重点目標としたい。 ○この場での触発を通じ、新たなイノベーションを生み出す若手研究人材の裾野を広げていくことこそが、財団の設立精神である「知の交流拠点」を実現したものであることから、産学官の研究交流促進と研究人材の育成を目指したセミナーへの参加者数を、最重点の成果測定指標とした。	○セミナーの個別テーマについては、企画委員会で十分協議し、各テーマと担当コーディネーターを具体的に選抜。 ○北海道から九州まで各大学、研究機関の第一線研究者から選抜し、全国から幅広く参加者を募っている。また、若手研究者からの発表も可能となるよう、発表時間（短時間）を工夫している。 ○セミナー参加者の増加に向け、関係する学会誌・業界専門誌及び各ホームページなどへの無料掲載等により周知・広報に努めている。
最重点目標達成のための組織の課題、改善点	○企画委員会で各委員（アカデミア・企業の21名）から旬のテーマ提案を募り、協議の上、毎年5テーマを選定し、これらのテーマに関する日本を代表する研究者をコーディネーター候補に選定。当該コーディネーターに、発表者選定を委任する運営を確立し、魅力あるセミナーの企画を行っている。 ○今後も、積極的な広報活動や新鮮でエキサイティングなテーマ設定、当日の意見交換の場の確保などにより、参加者及び満足度の安定的な確保を図るとともに、全国的なライフサイエンスの拠点として広く認知され、より幅広い人材の交流がなされるよう、取り組んでいく。	
活動方針	○事業の企画等を検討する企画委員会において、上記を踏まえた十分な検討を行い魅力ある旬のテーマ設定やコーディネーター・講師の選定を行う。	

公益財団法人　千里ライフサイエンス振興財団

Ⅱ．設立目的と事業内容の適合性（事業効果、業績、CS）

戦略目標	成果測定指標	単位	H30実績	R1実績	R2目標	ウエイト（R2）	中期経営計画最終年度目標値（R〇）	戦略目標達成のための活動事項
① 産学官の研究交流促進と研究人材の育成	千里ライフサイエンスセミナーの参加者満足度「大いに役立った」＋「役立った」/全回答（「大いに役立った」＋「役立った」＋「ふつう」＋「役に立たなかった」）	%	89	89.3	89.3	10	60	企画委員会での議論を踏まえ、コーディネーターと協議を重ね、魅力あるテーマ、講師の選定を進める。
② 優れた若手の先進的研究を積極的に支援・助成	岸本基金研究助成件数	件	15	15	15	5	計画期間中累計75	審査員の負担軽減を図りつつ厳正な審査を行い、採択レベルの向上を図る。
	岸本基金研究助成応募件数	件	234	196	215	10	－	財団HPで応募要領を開示するとともに、自然科学分野に関する学部・大学院を有する主要大学の学部長・研究科長に応募要領を送付し、学内での案内を依頼する。
③ 研究成果の実用化を支援	産学連携競争的資金獲得件数	件	5	6	6	15	－	AMED等の公募情報について全国各地で説明会を開催するとともに、財団コーディネーターが獲得に向けて研究者やベンチャー企業等の相談に適宜サポートを行う。
④ ライフサイエンスの情報発信拠点づくり	千里ライフサイエンスフォーラム参加者数	人	690	730	490	10	800	引き続き新規のクラブ会員獲得を図るとともに斬新で魅力的な講演テーマ、講師の選定を行い、積極的に参加者の募集を行う。
	ホームページ総アクセス件数（月平均）	件	10,491	9,986	10,000	5	13,000	財団HPのコンテンツ充実、新規セミナーの掲載案内、メルマガへの掲載依頼等を通じ、財団HPへのアクセス件数の増を図る。

Ⅲ．健全性・採算性（財務）、 コスト抑制と経営資源の有効活用・自立性の向上（効率性）

⑤ 経営基盤の強化	効率的・効果的な資金運用	億円	1	0.92	0.85	10	0.9	資産運用規程に基づき、長期的な観点からのより効率的・効果的な資金運用を行う。
⑥ 経営資源の有効活用	総労働時間（マンパワーの効率化）	時間	3,680	3,663	3,660	5	－	事務事業の効率化により、常勤職員（役員・管理職、製薬企業出向者を除く）の総労働時間数の縮減をめざす。

※（　）は当該年度の経営目標として設定していないため、参考として記入した実績値